



マリ共和国へ送る国際協力田米の発送式



マリへ支援米を発送
県労組協議や県農団労などでつくる県労農会議と県農協グループは13日、アフリカ・マリ共和国に送る支援米の合同発送式を長野市の県農協ビルで開いた。県内の小学生らが栽培したコメを含む計11トン余を発送した。写真。

農業への理解を深めつつ、食料不足に苦しむ人々を支援しようと毎年実施。県労農会議は1995年から取り組み、今回は県内の休耕田などで育てたり寄付を受けた約4トを送った。98年から「国際協力田」に取り組み、県農協グループは、県内18農協と、協力した。連合長野の栽培分を合わせて計7トン余を用意した。発送式では、農協の国際協



力田でコメ作りに関わった長野市古里小5年、角田茉莉美(まなみ)さん(11)が「マリ共和国の皆さんには、私たちが一生懸命気持ちを込めて作ったお米を、おいしく、みんなで食べてほしい」などと作文を読み上げた。